資料2

議事録（概要版）

＜県産木材の安定供給に関する意見交換会（第二回山林・加工・流通分野）＞

日　時：令和３年８月２６日（木）10:00～11:30

場　所：自治会館２０３会議室

議　　事

(1)宮城県の木材需給の動向について

（資料２を林業振興課長より説明）

(2)前回の会議報告

（資料３を事務局より説明）

(3)討議「今後の山側について」

１）流通分野からの主な意見

・価格や仕入れ等の状況は変わらず，価格高騰等の反動が今後どのように出てくるのか危惧。

・6 月以降，特にプレカット加工用の構造材の欠品が表面化し，プレカット工場は加工用の素材が確保できず上棟の延期などが相次いだ。

・合板で，特に厚物が不足しており，関東への引き合いが強い。

・羽柄材や下地材は従来の輸入材等の代替として，ポプラ LVL 等を利用している。

・国産材は 7 月あたりまで無いもの高で値上げ一辺倒だったが，盆前にようやく天井感が見えてきた。しかし，依然として部材によっては不足感がある。

・仕入面でみると価格・供給において，年内はこのような状況が続くと思われ，潮目が変わる可能性があるとしたら 2022 年第一四半期の輸入材契約のタイミングとなる。

２）山林分野からの主な意見

・丸太の増産について，間伐ではなく，皆伐を優先して行えば生産量は増やせる。

・皆伐を増やすと，再造林が必要となることから，造林後の下刈り等を含め助成をお願いしたい。

・また，再造林を行うことで労力が発生することから，マンパワー不足が懸念される。しかし，現在のウッドショックと言われる状況が恒久的に続くものかわからないので，人を雇うにも躊躇する。

・増産するには高性能林業機械やトラックが必要であるが，近年機械の大型化が進んでおり，林道の規格が古いと乗り入れできないことがある。現状に対応した林道も必要であるため，県からの指導をお願いしたい。

・山元から最終消費者へシームレスに情報共有できるサプライチェーンの構築が必要であり，その過程の中でボトルネックを見つけ出す努力が必要である。

・県産材への転換を進めるには様々な課題があるが，丸太の価値が高まっており，川上から川下までが連携し，森林所有者へ資金が環流する取組が進めばと考えている

３）木材加工分野からの主な意見

・製材用丸太については今のところ問題なく調達できているが，合板用丸太については梅雨等の影響からか，供給に不足感がでてきている。

・製材所は既にフル稼働の状態なので，増産するには施設整備するしかない。

・県産材（スギ）について，過度に強度を求めなければもっと使えると考えている。設計の中でうまく検討していくことや県の住宅支援事業と絡めながら進めていくことが肝心。

・また，設計等の業者側の視点だけでなく，エンドユーザーの目線で県産材のメリットを見いだしてもらうことを検討していく必要がある。

・スギの大径材に付加価値をつけていくには，大径であるメリットを活かした平角等の製材や，丸太の歩留まりを向上させるため，余すことなく使っていく取組が重要となる。

・今年度の住宅着工は例年並みだが，プレカットの状況だと 9～11 月の住宅着工が落ちていくと予想される。製材品は輸入材も国産材も高値となっており，住宅建設にあたってはその増額分を施主に転嫁するしかなく，施主が建設を諦めてしまう状況もある。

・丸太と製品の価格を比較すると，製品だけ大きく値上げしている状況。丸太価格があがらないと山元に還元できない。

・今後，輸入材の流通が回復し，国産材への注目が終わってしまう可能性がある。しかし，山の管理は 40～50 年と長期的なスパンとなってくる。現状でも山側で現状頑張っていただいているので，長期的な視点で取り組んでいただきたい。

４）その他意見

・本会議は未来に向けて，県産材の利用に資する取組を検討していく場と考えている。

・せっかく業界各社が集まる機会，前向きな検討を行いたい。

５）林業振興課長とりまとめ

・県として令和９年には 70 万㎥の素材生産量を目標としており，高性能林業機械の導入，路網整備はもとより，人材の確保，伐採跡地の適切な更新を進めていかなければならない。

・素材生産量を目標どおり増加させれば，木材需要の創出が必要と考えており，本会議において，住宅１棟の県産材利用割合はもっと増やしていけると考えている。

・住宅以外の非住宅等への利用拡大も必要と認識している。輸入材がスタンダードで利用される部分に国産材が利用されるように進めていきたい。

・サプライチェーンの構築等も重要と考えており，今後は山林・加工・流通はもとより，建築業界の理解を深めながら強く進めていきたい。

・県内で不足している乾燥機等の加工流通基盤の設備や JAS の取得の関係は課題となっている。国庫補助事業等を活用しながら取り組んでいきたいと考えている。

・ウッドショックを契機として意見交換会を実施することとなったが，川上から川下への強い連携が必要だと認識しているので，本意見交換会を引き続き行っていきたい。

・関係者間の情報共有が必要との発言があったが，県としても施策についての御意見御要望があればお願いしたい。

以上

＜実施状況＞

意見交換の様子

髙橋技監：あいさつ，意見交換会の座長

中村林業振興課長：取材の状況